千葉中央メディカルセンター

TOTO

外観

糖尿病・脊椎脊髄疾患・脳卒中・心血管疾患を中心に、各分野の専門スタッフや高度な医療設備を整え、専門性と救急診療を通じて地域医療への貢献に取り組んでいる。病床数272床。

改修前

改修前のトイレに対して、ご意見箱に「トイレが臭い・汚い」「正面玄関付近に、車いすで使用できるトイレがない」との声をいただくことがあった。

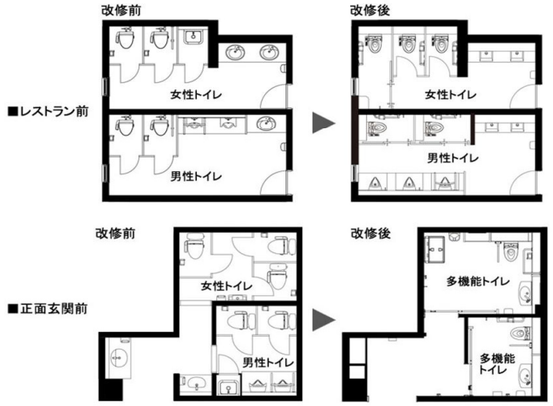
1F レストラン前トイレ 女性トイレ

一番奥は、扉を引戸にした広めのブース。荷物配慮として棚と荷物フックを設置。全ブースで大便器は壁掛式を採用し、床の清掃性に配慮。開きのブース扉は、緊急対応時は外側に開く仕様。

1F 正面玄関前 多機能トイレ 入口

車いす使用者も利用しやすいよう、個室数より各個室内のスペースの確保を優先し、男女トイレを2ヵ所の多機能トイレへと改修。多機能トイレの使用状況は、廊下からもランプの点灯で確認できる。

トイレ図面



レストラン前は、扉を開けた際トイレ内が見えにくいレイアウトに変更。また、器具配置を見直すことで器具数を増やし、混雑緩和を図った。正面玄関前は、使う人を選ばない「だれでもトイレ」に変更している。

1F レストラン前トイレ 入口

向かいに位置するレストランの雰囲気と合うように、優しく明るい印象の木目をスタッフで選定した。高齢の患者様も多いため、重すぎず軽すぎず、適切な力加減でドアが開閉できるよう調節している。

1F 正面玄関前 多機能トイレ1

付き添いの方、患者様、車いす使用者やお子様連れなどさまざまな使用者が快適に使用できるよう、手すり・ベビーベッド・ベビーチェア・パウダースペースを設置。器具の配置は、徹底した検証の上で決定。

1F 正面玄関前 多機能トイレ2

不特定多数の方が使用されるため、壁掛式大便器はメンテナンス性に優れた掃除口付きを選定。詰まりが発生した場合でも復旧までの時間を減らせるよう対策をとっている。

1F レストラン前トイレ 男性トイレ

大便器ブースの扉は、改修前の外開きから、誰もが使いやすいユニバーサルデザインの引戸に変更し、省スペース化も実現。小便器はシンプルデザインと節水性能を両立する壁掛式自動洗浄小便器を採用。

1F レストラン前トイレ 女性トイレ

3ブースあることを認識しやすくするため、番号を掲示。洗面カウンターとボウルは継ぎ目がなく、清掃性に優れたボウル一体形カウンターを採用。カウンター上段には、水濡れを気にせず小物を置くことができる。

建築概要

名　　称	千葉中央メディカルセンター
所 在 地	千葉県千葉市若葉区加曽利町1835-1
施　　主	医療法人社団 誠馨会 千葉中央メディカルセンター
設　　計	TOTOエンジニアリング株式会社
施　　工	TOTOエンジニアリング株式会社
竣工年月	＜レストラン前＞（改修）2015年6月 ＜正面玄関前＞（改修）2015年10月

水まわりの特長

＜改修の経緯＞

千葉中央メディカルセンターは、千葉市若葉区の地域中核病院として、超急性期治療から回復期のリハビリテーションまでを行っている医療機関である。
築30年以上が経過。病院のご意見箱に、「トイレが臭い・汚い」「正面玄関付近に、車いすで使用できるトイレがない」とのご意見が届いていたこともあり、正面玄関前、およびレストラン前のトイレ改修を実施した。改修にあたっては、院長・病院各分野の専門スタッフで意見を出し合いながら、病院の顔ともいえるトイレの詳細を決定した。

＜トイレの特長＞

1Fレストラン前のトイレは、扉を開けても中が見えにくいレイアウトに変更。
器具配置を見直すことで器具数を増やし、混雑緩和を図り、鏡は空間を広く感じさせる全面鏡を採用した。1F正面玄関前のトイレは、改修前は男女トイレだった場所に、より多くの方が快適に使用できるようにと、使う人を選ばない「だれでもトイレ」をコンセプトとした多機能トイレ2ヶ所を設置。トイレスペース全体から手すり・紙巻器・鏡、その他トイレ空間に設置する器具を想定したトイレ検証空間を、リハビリテーション室内に再現。身体の専門家である作業療法士や理学療法士などのリハビリスタッフが、車いすを用い徹底したシミュレーションを繰り返した上で、空間設定や仕様を決定した。

2016.11 作成　無断複製・転載禁止 （C） TOTO. LTD. 2016 All Rights Reserved 28243